

# 国語科学習指導案

日時	平成24年10月10日(水) 5校時
会場	3年A組教室(校舎2階)
生徒	3年A組(男10名 女13名 計23名)
授業者	小野寺 明美

## 1 単元名 芭蕉とともに旅をしよう ～おくのほそ道随行日記を書こう～

教材名 「おくのほそ道」(立石寺)

## 2 単元について

### (1) 教材観

- ・「おくのほそ道」は、松尾芭蕉によって書かれた日本の紀行文学の中でも最も優れた作品のひとつである。元禄2年の春、江戸を発ち、同年9月大垣に至る、行程2,400km、150日を超える旅での経験によって生まれた多くの名句をちりばめ、格調高い文章で構成されている。芭蕉の最も円熟した時期の作品であり、5年もの長きにわたって芭蕉の手元にあって、推敲を重ねたものとされており、一字一句もゆるがせにできないことを認識させる結晶度の高い名作である。
- ・本単元では、「おくのほそ道」の世界をより深く理解するために多読できるよう配慮し、芭蕉の心情がイメージしやすいもの、資料がそろっているものを観点として、教科書にある冒頭「月日は」と「平泉」の部分に加えて、「旅立ち(千住)」「立石寺」、「最上川」、「出雲崎」「大垣」を取り上げる。

### (2) 生徒観

- ・古典単元として、1年で「いろは歌」「竹取物語」、2年で「枕草子」「徒然草」「平家物語」、3年で「万葉・古今・新古今」を学習している。仮名遣いや古語の解釈など古典の基礎知識と合わせ、古人の心にふれたり、古文に書かれている情景や場面を読み取ったりすることで、関心を高めた生徒もいた。音読や暗唱といった活動が多いことや文語文の持つリズムや力強さ、作品のおもしろさのために古文が好きであるという生徒がいる反面、文語文に対して抵抗を感じ、理解が不十分な生徒も少なくない。
- ・2年で「短歌」を扱う単元で近・現代短歌を学習し、3年「俳句の読み方、味わい方」の単元では情景や心情を想像して鑑賞文を書く学習を行った。凝縮された言葉の中で、さまざまに想像を広げ、鑑賞することに楽しさを見出した生徒も多かった。
- ・授業ではペアで活動したり、小グループで意見交流をしたりする活動が自然なものになってきている。

### (3) 指導観

- ・中心となる指導事項は「読むこと・ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。」「伝国ア(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。」とする。
- ・本単元では、「おくのほそ道」のそれぞれの場面を読み取った後、日記を書く活動を設定し、学習者がじっくりとテキストとかかわる学びを実現したい。
- ・共通教材として、「冒頭」、「平泉」、「立石寺」を扱い、それ以外は、並行読書教材として扱う。「冒頭」では、芭蕉の人生観や旅に出る動機に共感させ、仮想体験学習の動機付けとしたい。「平泉」では、地の文と俳句のつながりをよりはっきりと意識させ、自然の悠久性と人間の営みのはかなさに涙を落とすまで感慨にふけた芭蕉の思いに触れさせたい。「立石寺」では、芭蕉の俳句の推敲過程について思考することを通して、作者が一語に込めた思いをとらえさせたい。
- ・学習のまとめとして、芭蕉の心情や情景について、自分なりにイメージを膨らませたことを日記の形で表現させる。単元の終末では、並行読書した場面4箇所から一つの場面を選ばせ、日記を書かせる。書いた日記は掲示し、おくのほそ道の旅を日記でたどれるようにさせ、作品交流の場ともしていきたい。

### (4) 研究とのかかわり

- ・本時ゴールを明確にする課題設定<導入>  
本時は、「立石寺」の場面を読み、日記にまとめていくことを知らせる。

- ・言語活動を充実させた活動による課題解決<展開>  
推敲過程の俳句を3つ提示し、自分だったらどれを選ぶかを考えさせる。芭蕉の考え方とは異なってもいいので、高く評価した理由、高くしなかった理由をそれぞれあげる。選んだ理由を話し合う中で、俳句の言葉と地の文の言葉を比較検討させる。個人思考の後、少人数グループでの話合いの時間を取り、異なった考えや思いを聞き、自分自身の考え方を広げられるようにしたい。
- ・集団の学びを個に返すまとめと評価<終末>  
本時で読み取った情景や芭蕉の心情を日記の形でまとめさせる。  
学習を振り返り、本時で学んだこと、気づき、今後役立てたいことをワークシートに記入させる。

### 3 指導と評価の計画

3年 国語		単元(題材)名 古典「おくのほそ道」		総時間	7時間扱い
学習指導要領の指導事項			単元目標		
読むことア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。		読むことア(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。		○古典に示された内容やものの見方について関心をもち、感想を交流しようとする。 ○語句の効果的な使い方や表現の仕方、文体の特徴に注意して読み味わい、古典に親しむことができる。 ○歴史的背景を想像しながら「おくのほそ道」を読み、作者のものの見方や感じ方を読み取ることができる。	
国語に関する関心・意欲・態度		読む能力		言語についての知識・理解・技能	
○進んで古文を読み、様々な見方で読み味わい、感想を交流しようとしている。		読① 現代語訳や脚注と対照させながら俳句や地の文の内容を理解し、俳句に込められた芭蕉の思いをとらえている。		言① 歴史的背景や対句的な表現や漢文調の言い回しに着目ながら古文を読み、松尾芭蕉のものの見方や考え方を想像している。	
時間	主な学習活動 ／評価規準	国語に関する 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能	
1	・「おくのほそ道」全体の概要や作品の成り立ちを知る。	・作者や作品、学習の進め方について知り、今後の学習に意欲を高めている。 【ワークシート】			
2	・冒頭文を読み、作者の「旅の思い」について考える。	・友達と協力して音読の練習をしている。【観察】 ・芭蕉の「旅への思い」について自分なりの感想を書いている。 【ワークシート】	・旅＝人生といった芭蕉の考え方や「古人」にあこがれる思い、旅の支度など、芭蕉の旅に対する思いを読み取っている。 【観察・ノート】	・音読を通して、古文の特徴に気づいている。【観察】	
3 4	・平泉の場面を読み、芭蕉が何を見、何を感じたか読み取る。	・言葉の比較について、自分なりの考えを述べるとともに、友達の考えもよく聞いて検討している。 【観察・グループ活動の取組】	・地の文と俳句の言葉との関連に着目し、場面の情景や芭蕉の心情を読み取っている。 【観察・日記】		
5	・立石寺の俳句が完成するまでの推敲過程を知り、作者が一語に込めた思いを理解する。 【本時】	・表現上の工夫について、意見交流しようとしている。 【観察】	・地の文と俳句の言葉との関連に着目し、場面の情景や芭蕉の心情を読み取っている。 【観察・日記】	・文章中の語句の意味を考えている。 【観察】	
6	・並行読書した場面から一つ選び、情景や芭蕉の思いを読み取る。	・自分で選択した場面について、自分なりに読み取るようとしている。 【観察】	・地の文と俳句の言葉との関連に着目し、芭蕉の心情を自分なりに読み取っている。 【日記】		
7	・講評をきき、学習を振り返る。	・学習の成果を確認することができる。 【ワークシート】			

### 4 本時の目標

- ・立石寺の俳句が完成するまでの推敲過程を知り、場面の情景や芭蕉の心情をつかんで日記にまとめることができる。

## 5 本時の指導 (5/7)

【既習の学習】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典単元で、昔の人々の思いやさまざまな時代の古典の世界観にふれている。</li> <li>・短歌・俳句の単元で、作品に書かれている情景を想像しながら読み深める学習をしている。</li> </ul>				
【前時の学習】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時は、「平泉」の場面を読み、地の文と俳句から場面の情景や芭蕉の心情をつかみ、日記にまとめた。</li> </ul>				
時	学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の視点・方法
導入 5分	1 前時の活動を振り返る。	○振り返りから前の時間の学んだことをおさえる。	○何人かワークシートの内容を発表させ、前の時間で学習したことを確認させる。	
	2 学習課題を把握する。	○本時の学習課題を確認する。	○課題を黒板に書き、目的意識を明確にする。	
展開 35分	「立石寺」での芭蕉の思いをとらえよう			
	3 課題を追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「立石寺」の原文を音読する。</li> <li>○「立石寺」の現代語訳を音読する。</li> <li>○「立石寺の俳句」が完成するまでの推敲過程の俳句を読み比べて、表現の仕方について評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意味の切れ目に注意し、声をそろえて音読させる。</li> <li>○いつ、どこで、どうしたのか、を確認させる。</li> <li>○「推敲」の意味を確認する。</li> <li>○初句を空欄にし、そこに入る言葉として、「山寺や」「さびしさや」「閑<sup>しづか</sup>さや」の3つのうち、自分だったらどれにするか、その理由をプリントに記入させる。</li> <li>○個人で取り組んだあと、4人1組のグループで意見を交流させる。</li> <li>○全体で意見を交流させる。芭蕉が最終的に選んだ言葉を予想する。</li> </ul>	<p>〔観点：読むこと〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地の文と俳句の言葉との関連に着目し、場面の情景や芭蕉の心情を読み取っている。</p> </div> <p>(日記)</p> <p>A:「閑さや」⇔「蟬の声」 一体感 深い静かさ</p>
4 自分の考えを再構築する。	○なぜ最終的に「閑さや」を選んだのかにふれながら、日記をまとめる。	○地の文の内容と関連付け、作品の完成度が高められていることに触れて、日記をまとめる。		
終末 10分	5 学習を振り返る。	○学習を振り返り、ワークシートに記入する。	○授業を振り返り、学んだこと、気づき、今後役に立ちたいことを記入する。	
【次時や別単元での学習】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、並行読書した中から各自が選択した場面を読み取る。</li> <li>・家庭学習で並行読書を進めておく。</li> </ul>				